

# Design Exhibition

メイド・イン・トヤマのデザイン展

## 企業とデザイナーの 創造的な 出会いを求めて

[期間]9月12日(木)~24日(火) [会場]東京ミッドタウン デザインハブ

東京で初の県内産業とデザイナーとの  
デザインマッチング事業となる  
「メイド・イン・トヤマのデザイン展」が、  
9月12日から13日間にわたって開催されました。  
富山県内の企業19社が出展し、首都圏のデザイナー、  
バイヤーおよび関連企業を中心とする来場者にその優れた技術や製品、  
デザインへの取り組みをPRしました。  
併せてセミナーや交流会、デザインシンポジウムが行われ、  
多くの参加者を集めました。



富山のリソースでヒット商品をつくる  
「メイド・イン・トヤマのデザイン」

[期間]2013年9月12日(木)~24日(火)  
※会期中無休・入場無料 ※台風のため1日休館  
[会場]東京ミッドタウン デザインハブ

マッチング参加企業の紹介展示  
デザインセンターの実績紹介など

基調講演  
デザインとエンジニアリングの  
マッチングスキーム

[講師]山中 俊治(東京大学生産技術研究所 教授)  
[期日]9月12日(木)  
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

交流会

[期日]9月12日(木)  
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

参加者の意見交換を目的に開催

デザインマッチング相談

[期日]2013年9月12日(木)~24日(火)  
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

県内企業と首都圏で活躍する  
デザイナー等とのマッチングを実施

企業プレゼンテーション

[期日]9月13日(金)~14日(土)  
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

マッチングを目的とした出展企業6社による  
各社の商品や技術等についてのプレゼンテーション

デザインシンポジウム  
デザインカンパニー  
タカタレムノスとデザイナー達

[講師]高田 博((株)タカタレムノス 代表取締役社長)  
澄川 伸一(プロダクトデザイナー)  
寺田 尚樹(建築家・デザイナー)  
[期日]9月24日(火)  
[会場]インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

### 出展企業



usuiworks株式会社



株式会社梅かま



株式会社大越仏壇



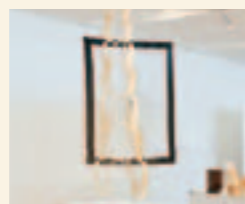
株式会社織田幸銅器



KANAYA



株式会社かんでんエルファーム



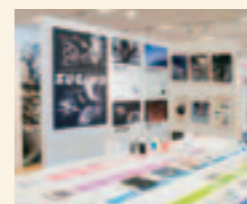
株式会社キミオファッション



三協立山株式会社 三協アルミ社



新光硝子工業株式会社



株式会社スギノマシン



株式会社高田製作所 / 株式会社タカタレムノス



中越ハルブ工業株式会社



中越レース工業株式会社



株式会社能作



北陸エステアール協同組合



株式会社松井機業



株式会社リッセル



YKKファスニングプロダクト販売株式会社



## 富山のリソースでヒット商品をつくる 「メイド・イン・トヤマのデザイン」

2013年9月、東京ミッドタウン デザインハブにおいて  
富山のデザインの取り組みや県内企業の技術力をPRすることを目的に  
企画展「メイド・イン・トヤマのデザイン展」を開催するとともに  
県内企業とデザイナー等とのデザインマッチングを実施しました。  
今後、県内企業の技術力に最先端のデザインを取り入れた  
高付加価値の商品開発につなげていきます。

### 13日間で延べ2559人の 来場者を集める

県総合デザインセンターでは、高い付加価値を持つ商品の開発を目的に、県内企業とデザイナーとの出会いの場を作るデザインマッチング事業を長年にわたって続けています。今回の「メイド・イン・トヤマのデザイン」は、その舞台を富山から初めて首都圏に移して行われました。

会場となった東京ミッドタウン(東京都港区赤坂)のデザインハブでは、仲見世通りをイメージした通路の両側に出品企業のブースが並びました。来場者は歩きながらブースを覗き、気になった技術商品については、立ち止まって出品企業の担当者から詳しく説明を聞いていました。

ブースは企業の訴求ポイント別に3色に



県総合デザインセンターの主要プロジェクトが展示紹介された。(越中富山お土産プロジェクト)



富山のデザイン力、高い技術力、素材の特性を活かした商品力に、来場者も驚いた様子。来場者、出品企業ともに活発にコミュニケーションが図られた。

色分けされました。赤はデザイン開発に積極的に取り組み、販路開拓を意識した企業のブース、青は自社が持つ素材をデザイナーなどに提供することをめざす企業のブース、緑は技術力を訴求する企業のブースです。

13日間で来場者数は延べ2559名のほり、特に建築家、プロダクトデザイナー、バイヤーの方が多く訪れました。富山県にこんなデザインがあったのかと初めて知ったという人が多く、さまざまな業種で優

れた技術や興味深い素材を持つ企業があることに驚いたという声も聞かれました。

### デザインマッチングの 成果も誕生した

「メイド・イン・トヤマのデザイン」の開催をきっかけとして、首都圏のデザイナーと出品企業とのコラボレーションによるプロジェクトがいくつか進んでいます。

アルミニウム建材の製造販売を行う三協立山(株)三協アルミ社は、県総合デザイ



ンセンターの桐山デザインディレクターのプロデュースにより、5組の建築デザイナーと事前にマッチング作業を進めてきました。

そのプロジェクトの成果が「住空間ラボ5組の建築家と考える新しい境界とそのエクステリアデザイン」としてまとめられ、10月21日にAXISビル(東京都港区六本木)で発表されました。それぞれの建築家が「境界」について新たな概念を構築し、それに基づく新たなデザインが模型やイメージの形で紹介されました。

出展した19の企業にとっても、大きな刺激を得る機会となりました。これをきっかけに富山県と首都圏とのデザインマッチングがさらに進むことが期待されます。

### 石井知事も会場を訪れ デザイン行政について 意見を交換

22日には石井隆一富山県知事が会場を視察し、展示内容について説明を受けました。その後大矢県総合デザインセンター所長、(公財)日本デザイン振興会の川上元美会長、(公社)日本インダストリアルデザイン協会の田中一雄理事長、女子美術大学の廣田尚子教授、(株)能作の能作克治社長が、今後の富山県のデザイン行政に



ついて石井知事と意見を交換しました。

### 多くの参加者が集った 基調講演と交流会

初日の12日には、オープニングイベントとしてデザインセミナーが開かれました。

まず県総合デザインセンターの大矢寿雄所長がこれまでのセンターの活動を紹介しました。2015年春には北陸新幹線が開業して富山と東京が約2時間で結ばれることから、富山県のブランド価値、企業価値をさらに向上させていくことが重要で、そのためには「デザイン立県富山」を進め、デザインで産業を元気にして国内のみならず世界に富山県をアピールしていきたいと

決意を語りました。

続いて東京大学生産技術研究所教授の山中俊治氏による講演「デザインとエンジニアリングのマッチングスキーム」が始まりました。山中氏は日産自動車(株)より独立後、フリーランスのデザイナーとして自動改札機や義足など多種多様なプロダクトデザインのプロジェクトをリードしてきました。セミナーの参加者は137名で、数多くの事例を紹介

しながら新しいデザインのあり方について語る山中氏の講演に熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われました。

デザインセミナーに続いて出品企業と来場者の交流会が行われ、122名が集まりました。名刺交換をしたり歓談するなど和やかな雰囲気の中でデザインマッチングを広げる場となりました。





## 富山のリソースでヒット商品をつくる「メイド・イントヤマのデザイン」

### 出展企業6社がマッチングに向けて商品や技術をPR

13日と14日には、出展企業6社がデザイナーなどに対して自社の取り組みについてプレゼンテーションを行いました。2日間で延べ61名が参加しました。



(株)スギノマシンによる企業プレゼンテーション

### 9.13 fri

北陸エステアール協同組合

アパレルから機能素材までを繋ぐ「編み」技術

中越レース工業(株)

エンブローダリーレースのある暮らし

(株)スギノマシン

「5つの超」と独創の商品開発  
～自ら考え、自ら造り、自ら販売・サービスする～

### 9.14 sat

中越パルプ工業(株)

日本人の心に響く  
イノベーション素材 ~竹紙

新光硝子工業(株)

自然の美の追求  
～曲線と色彩の世界～

(株)能作

素材を活かし、デザインで時代を捉える“能作”のものづくり

### デザインシンポジウム

## デザインカンパニー タカタレムノスとデザイナー達

【講師】高田 博 (株)タカタレムノス代表取締役社長)  
澄川 伸一 (プロダクトデザイナー)  
寺田 尚樹 (建築家・デザイナー)

【モデレーター】桐山 登士樹 (富山県総合デザインセンターデザインディレクター)  
【期日】9月24日(火) 【会場】国際デザイン・リエゾンセンター



DIAMOND (デザイン:澄川伸一)

これまで置時計や掛時計を中心に、数々のデザイナーと商品開発を実践してきた“(株)タカタレムノス”。デザインシンポジウムでは、タカタレムノスの高田社長と、共に商品を開発してきたデザイナー澄川氏、寺田氏の3名を迎えデザイン事例などが紹介されました。

澄川氏、寺田氏の活動紹介のあと、高田社長から、これまでに商品化した時計の開発当時のエピソードを織り交ぜながら、デザイナーの個性とそれを時計に落とし込むタカタレムノスの関わり方について、また、時計に留まらず、近年寺田氏と取り組むアイスクリームを楽しむためのプロジェクト「15.0%」へ込めた思いや、これから進めたいデザイナーとのマッチングについてお話していただきました。



15.0%アイスクリームスプーン (デザイン:寺田尚樹)

### 基調講演

## デザインとエンジニアリングの マッチングスキーム

【講師】山中 俊治 (東京大学生産技術研究所教授)

【期日】2013年9月12日(木)

【会場】国際デザイン・リエゾンセンター

東京ミッドタウン・デザインハブ特別展「メイド・イントヤマのデザイン」の併催イベントとして、東京大学生産技術研究所の山中俊治教授を講師に迎えて基調講演を開催しました。デザインとエンジニアの両者の視点を持つ山中教授に、デザインとエンジニアリングをシームレスに繋ぐスキームの実践と今後の展望についてお話していただきました。



「デザインとエンジニアリングの最先端で人がどう関わるかを、試作品を作りながら解決することが大切。とにかくやってみるという動きが、地方から起こってほしい」と山中氏は強調した

### 自動改札のプロジェクトで ユーザビリティを考えた

20年近く前、自動改札の実用化プロジェクトに参加してプロトタイプ(試作品)を作りました。カードに電波を送って料金などのデータを書き込む技術自体はすでにできていましたが、実験してみると、今と違ってなかなかうまく具合に利用者がカードを改札機に当ててくれません。

ピッと鳴るまで待つという行為を誘発するために、くぼみをつけたり、傾ける方向を変えたりして実験を繰り返すうちに、当てる部分を手前に傾けて光らせるのと劇的に改善することが分かりました。このときのプロトタイプの角度は13.5度で、それが今日本全国の自動改札に採用されています。

この実験では、ヒトのふるまいと技術の原型をデザインしたと言えます。色や形を格好よくするだけでなく、ヒトとモノの関係を決めるユーザビリティを考えるのもデザイナーの仕事であるという認識は、1990年代後半あたりから広まってきました。

### ロボットが悩んでいると 見るだけでわかるようになる

その後親指だけで入力する両手親指キーボードの開発に関わりました。最終的に製品化には至りませんでしたが、自分た

ちが欲しいもの、理想とするもののプロトタイプを自力で作るといふ姿勢が大事だと実感したプロジェクトです。持てる限りの技術とお金で自分たちが作りたいものを作れば、エンジニアになるかデザイナーになるかと迷わなくてもいいことを発見しました。

またロボットにも興味があり、2006年に生きものっぽいふるまいをする機械を出展しました。伸縮性の高い布の中で曲がった棒を動かすだけなのですが、ヒトが触れると急に違った動きをするので驚きます。

なぜ生きものっぽい動きをさせるかという、未来のヒトと人工物の関わりは、命令に従って動かすという一方的なものではなく、考えているからです。機械がフッと生きものっぽい動きを見せて、あ、今困っているとか、さぼっているとわかる。そんな洗

練された関係になるでしょう。

### デザインは色や形だけでなく 人と人工物との関わりを創る

プロトタイプは単なる試作や実験機ではなく、ユーザー体験を事前に提示し、技術がもたらすものを共有するためのツールです。開発チームの価値観を共有するだけでなく、社会に開発しているものの意義を訴えてファンを獲得するためにも、プロトタイプは重要な役割を果たします。

デザインが美術の一部である時代は、前世紀の最後の10年間で終わってしまったと思います。デザインとは、ヒトと人工物の関わりや体験のすべてを設計することです。そのことが理解できるエンジニアや経営者を育てていきたいと考えています。



数多くの製品づくりに携わってきた山中氏の講演には多くの聴衆が集まり、人の身体と一体感のある義足など、最近の成果も数多く披露された